

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 8 月 30 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	社会福祉法人 口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	広島県庄原市口和町永田413 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	平成28年7月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3492100031-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年8月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム口和では9名の利用者様が生活しておられ、皆様それぞれに役割りを持たれ毎日の生活の中で、自助に向け努力されておられます。職員はそれをお手伝いさせて頂いています。また毎日の散歩は欠かさず、皆様そろって出掛けておられ、地域の皆さんとも声を掛け合う関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地元の要望で建てられたホームであり、市町の協力体制や近隣住民とは顔なじみの関係である。恵まれた自然環境の中で、ゆっくり、ゆったりと生活できるように、職員は常に利用者に寄り添いながら支援をしている。事業所内での研修体制の充実やホームが目指すべき方針が明確化されている。利用者は毎日の散歩が日課であり、継続することにより、身体機能の維持に繋がっている。ホームの菜園で採れた野菜を活用することもあり、3食共手作りの食事は好評である。本人がより良い生活を送るためには、まず環境を重視し、利用者の方が楽しんで頂くためには、どうしたら良いかを常に考え、職員間で話し合いながら支援されている。利用者も自分の居場所、役割（食事の準備、掃除など）があり、利用者の思いを実現している。今後も利用者への支援のため、働きやすい職場づくりと後任者（リーダーなど）の育成にも力を入れていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「小さな気遣いが大きな安心」がグループホーム口和の理念です。細かな気遣いを心掛け、利用者の皆様が安心して生活が営めるよう日々の実践に取り組んでいます。	年度初めに理事長から、事業所としての目指すべき方向性などの話がある。地域状況や社会状況などにより、毎年度事業計画を作成し、目標を設定している。理念の共有と実践が維持・向上できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や通院、散髪などを通じて地域との関わりを継続しています。	法人で納涼祭を行い、地域の方が訪れている。保育園・小学校・中学校との交流がみられ、併設の特別養護老人ホームの行事への参加や毎日の散歩を通して、地域の人との交流にも心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトへの参加と庄原市社会福祉協議会口和地域センターとの協働で地域の中学校、小学校を訪問し、体験学習、啓発学習などを実施しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域住民の皆様に参加していただき、行政関係者、保健師、消防署、警察、民生委員の方々にも参加していただいています。	市担当者・民生委員など、多数の地域住民が参加し、定期的で開催されている。会議では、事業所の取組みの状況が報告され、情報交換、意見交換をしている。家族不参加の状況を踏まえ、今年度(H28年)から食事会を兼ねて家族との交流を図る取組みを行った。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの保健師や社協と協力関係を築いています。また週1回のミニ調整会議、月1回の地域ケア会議へ出席し、各関係機関との情報共有を図っています。	地元の要望で建てられたホームでもあり、市担当者との協力関係が築けている。週1回のミニ調整会議や月1回の地域ケア会議への参加により、各関係者との情報共有、協力関係を築く努力をされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人内研修に職員全員が参加し、身体拘束について理解を深めています。	玄関には、安全確認としてセンサーチャイムを備えて、夜間以外は施錠をしていない。職員が講師となり、法人内研修として職員勉強会を行っている。職員は正しい理解に努め、言葉や態度に気を付けたケアを日々実践している。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	法人内で研修会を実施しています。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	職員研修を行い理解を深めています。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時には担当職員がわかりやすく説明をしています。契約後でも疑問や質問があれば、その都度説明しています。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	面会が頻繁にあるご家族様には、今の様子などをお話しています。また1カ月に1回、メッセージカードに利用者様の様子を書き添えて、ご家族にお送りさせて頂いています。	年1回、家族会の実施や毎月、職員からホームでの近況報告のメッセージカードを送付している。利用者から「お寿司が食べに行きたい」との要望があり、企画、準備をされていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や業務の中で、職員からの意見を聞き取って、原則として翌月には職員全体で意見など精査し、業務に反映できるか否かを検討しています。</p>	<p>物品などの購入を含め、利用者支援についての話し合いが多く、毎月のミーティングや日々の申し送りなどで話し合いが行われている。職員同士が話しやすい雰囲気であり、不安や不満などがあれば、その都度話し合いをしている。現在、後任の育成（リーダーなど）に向け準備の段階である。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>各職員が向上心と、明るく仕事ができる環境作りに努めています</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内研修を実施しています。職員全員の参加で取り組んでいます。出席できなかった職員には、後日に伝達研修を実施しています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部研修に参加し、他の事業所の職員と情報交換を行なっています。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人様、家族様からの要望や願いなど聴き取り、本人様が安心して生活が出来るように支援しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の要望、不安な事など、利用前、利用後を問わず安心していただけるように、いつでも気軽にお話しが可能な関係作りに取り組んでいます。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>必要とされている支援は行なっていますが、他のサービスを含めた対応は、現在のところ対応していません。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>共に生活している家族のように接して、安心と安らぎをお互いに共有しながら生活をしています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族様にメッセージカードを送り、1カ月の様子を家族の皆様へ送っています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>通院や散歩、散髪などを通じて、なじみの関係が途切れないよう努めています。</p>	<p>職員は利用者の思い出の場所を大切に考え、知人・友人との交流・馴染みの美容院やお墓参りなどに行くこともあり、家族の協力を頂き、個人で外出をされている。管理者が老人介護支援センターの管理者を兼務しており、地域サロンの開設を検討中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が、上手く交流が出来るように、職員が援助しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併施設等を利用された方には、訪問などその方との交流を継続しています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりに個別にお話しを聞きながら、現在の状況を把握しています。検討課題がある場合は、職員、管理者で会議を開催しています。	日常会話から得られた利用者の思いや意向は、「24時間シート、個別記録」に記録し、職員間で共有している。環境や役割づくりが大事だと考え、食事の準備、掃除など、利用者の思いを実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前や利用されてからのご本人のお話しや、ご家族からのお話しで得た情報を、職員間で共有し、ご本人にとって心地の良い環境作りを実施しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用前からのアセスメント、利用後からの「24時間シート」等からの情報を基に、その人の生活パターンを把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	職員全員で「24時間シート」の作成に取り組み、ケアプランに反映させ、統一した介護に取り組んでいます。	日々の関わりや、言葉、行動などを丁寧に把握されている。一人ひとりの「24時間シート」を活用し、本人の状態を把握している。環境づくりが大事だと考え、日々の生活が楽しく、快適となるような計画を作成し、実践している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	ケース記録や日誌を確認しながら、情報を共有しています。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	自然災害などにも対応した事例もあります。もしもの時の対応ができるように、体制を整えています。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	地域ケア会議に出席して情報収集をしています。常に地域での出来事を把握して、グループホームの利用者の皆さんが安心して生活ができるよう取り組んでいます。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	主治医、歯科医師と日頃から連絡を取り合い情報交換を行っています。また月に1度は定期通院を行い、緊急時に対応できるよう取り組んでいます。	病院が隣接しており、主治医は、法人内の嘱託医としている。緊急時には、24時間連絡体制が整っており、利用者・家族にとっては安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設施設の看護師と連絡、報告の体制が整っており、緊急時の対応に備えています。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時の状態を、家族や医療機関等から聞き取りを行い、ご本人が退院されても安心して生活ができるよう取り組んでいます。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化については、併設施設や嘱託医の指示のもとで、医療機関に繋いでいます。口和福祉会の方針については、契約時にご家族に説明し、同意をいただいています。	看護師は配属されておらず、医療行為ができないため、終末期の対応はお断りしている。なお終末期の時期は、日々の状況変化があるため、重度化やターミナルケアに向かう時期となれば、嘱託医との話し合いを重ねて対応している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	法人内で研修会を実施しています。心肺蘇生法からAEDの使用方法について、勉強会を実施しています。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	法人内で年2回、火災避難訓練を実施しています。火災時の消火訓練や避難経路の確認をしています。今回、目標としている災害時の避難経路の確認および訓練は現時点では実施出来ていません。	地域の福祉避難所として指定を受けている。消防署の指導により、避難経路を増設した経緯がある。母体の特別養護老人ホームには、食糧などを備蓄している。ホーム近くの河川の増水の危険性もあり、今後は水害に対する危機管理を強化していきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修会を開催し、権利擁護の知識を深めています。職員一人ひとりが共通意識を持ち、業務に取り組んでいます。	定期的な法人内研修により、意識づけされている。権利擁護の指針が明確にされており、職員は利用者に対し命令、指示することなく、言葉使いや口調に日常的に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活のなかで、ご利用者の皆様が自分らしく表現ができるように、関わりを持っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的スケジュールはありますが、一人ひとりの生活リズムを大切にして、安心して生活ができるよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしく表現できるように、オシャレや身だしなみ、整容のお手伝いをさせていただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その季節に収穫できる野菜を育てています。収穫時期には皆さんでいただいています。また嗜好調査も実施して、皆さんの好み、食べたいものなどの把握に努めています。	年3回、嗜好調査を実施し、3食共手作り提供している。地産地消を心掛け、ホームの菜園で採れた野菜を活用することもある。本人の能力に応じて、食事の準備・片付けなどをされていた。定期的に外食をすることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事がおいしくいただけるように、工夫をしながら食事の提供をしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアを実施しています。また治療が必要な方については、歯科受診にて対応しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立した排泄ができるように、昼夜の排泄リズムを観察して、「24時間シート」に記録しています。</p>	<p>トイレは3箇所あり、トイレに座ることを基本とし、利用者ごとに排泄状況の記録を確認しながら、個人のペースで行っている。適切なケアの実施により、紙パンツから布パンツへ移行した例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘にならないように、日頃から散歩や食事、水分補給に気を付けながら、便秘の予防に努めています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ご利用者が、安心して気持ちよく入浴できるように支援しています。</p>	<p>体調にもよるが、希望があれば毎日入浴することも可能である。週3回、午後（15：00～17：00）の入浴で対応している。本人に満足して頂くことを心掛け、ゆっくりと入浴ができるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>ご利用者の一人ひとりにあった休息をとってもらっています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師からの処方説明と看護師と連携して服薬管理を行っています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食事の準備、掃除など、それぞれの役割を持って活動できるように生活支援を行っています。またその人ができないことを、その都度把握できるように努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>毎日散歩に出かけています。天気の良い日には、出来るだけ外気に触れてもらっています。また週に2回、車で20分ほどのデパートに買い物に出かけています。もちろん、外食ドライブなどのイベントも実施しています。</p>	<p>毎日の散歩は欠かさず皆さんそろって出かけている。併設施設（特別養護老人ホームなど）への催し物、行事への参加や、ドライブ、買い物などに出掛けている。野菜づくりにも力をいれており、収穫された野菜は、食事に生かされることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人様がお金を管理して、自立に向けた生活を支援することが大切なことは理解していますが、法人全体の取り組みとして、原則、金銭の持ち込みは禁止にしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご利用者が、いつでも連絡がとれるよう支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間にはソファを設置して、皆さんがゆっくりと過ごせるようにしています。また新聞や雑誌などもあり、好きな時に観ることができます。</p>	<p>午前は活動する時間帯とし、午後からはゆっくりと過ごせるように、一人ひとりの時間を大切にしている。日中はリビングで過ごすことが多く、ソファなどを設置し、ゆっくりと過ごせるように環境づくり努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビング、廊下に椅子を設置しており、いつでも一人になれる空間を用意しています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご利用者が以前から使用されていた愛用品や、使い慣れたものがあれば持ち込んで頂くようお願いしています。新聞など個人購読されていた方も、ご利用後も変わらずに新聞を購読いただけます。</p>	<p>利用前に説明し、「利用のしおり」を手渡し、必要物品等を準備して頂いている。各居室は、車いす使用の方でも十分のスペースが確保されている。居心地よく生活して頂くように、利用者と家族と相談しながら工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ご利用者が安心して生活ができるよう、職員相互で情報を共有し、自立に向けた生活に向け支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 平成28年9月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		自然災害を想定した訓練が実施出来ていない。施設周辺に河川があり、氾濫の危険がないとも言えない。	水害時の避難経路の確認と訓練。	避難場所、経路の確認、避難計画書の作成。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。